

校訓	友 勤 自 愛 勉 治	 令和7年度 東中だより 第3号	発行日	令和7年5月8日
教育目標	多様化の時代を生きる 心身ともにたくましい生徒の育成		発行者	伊丹市立東中学校 校長 前田 徳三

【東中学校が目指すカラフルな教育】

変化の激しい時代においては、子どもたちがしっかりと自分の考えを持ち、人とのつながりを大切にしながら、新たな価値を創造することが求められています。そこで、伊丹市では「カラフルな教育」を薦めています。これは、これまでの画一化されていた教育から、子どもたちが主体となって、自分なりの選択をしたり、決断をしたりできる学びの場がある教育をカラフル（子どもたちも先生も、ともに自分の色を大切にする）な教育を通して、ウェルビーイング（心も体も満たされた状態）を実現することを目的としています。



本校においても、ただ単に、知識を習得するだけの学習ではなく、学んだことを通して、これからの社会で通用する力を身に付けてもらいたいと考えています。そのため、これまでの知識を教え込む授業だけではなく、子どもたちがこれからの社会を逞しく生きて働く学力の習得にも努めてまいります。

一方、全国学力調査の結果から、全国的に「知識・技能」と比べて、「思考力・判断力・表現力」が低いことが明らかになっており、本校においても同様です。思考力・判断力・表現力は、これから生きて行く上で、様々な課題解決や自己決定などを行う際に欠かせないものです。そのため、日々の授業において、友だちと議論したり、自らの考えをわかりやすく説明したり、長文などで論述したりする活動を重視しています。いわゆる「教える」から「学ぶ」へ、「知識・技能」重視から「課題解決」重視へと転換する授業のあり方を進めています。また、「生涯学習」がより重要となる現在において、生涯学習に結びつく教育が重要であり、教育改革であると捉えています。

慶応義塾大学 安宅和人教授は、「覚える力」ではなく、「気付く力」、それに基づき何かをやる力が子どもたちの成長力の土台とも言われています。そこで、本校では、知識型教育だけでなく、思考型教育に転換するべく、自由進度学習や自己調整力を身に付けられる「指導の転換」に努めています。

本校が目指すカラフルな教育の一つである自己調整学習とは、これまでの

教師主導の学習も大切にしながら、必要に応じて、自分に適した学び方で学習していきます。例えば、授業中に図書室などで調べに行く。タブレットなどを活用して1人でじっくりと考える。ペアで考える。グループで考えるなどの選択肢から、自ら主体的に考え、学ぶ姿勢が育てていきます。昨年度、県内、他県において先進的に取り組まれている学校に先進校視察を行ったり、4月にも総合教育センターの指導主事を招聘したりして研修を進めています。

このような取組は、子どもたちの責任感や自己肯定感が少しずつ向上するという調査結果があります。また、忍耐力や自制心を育てていくことにも繋がり、苦難に遭遇した時や、落ち込んだ時にも立ち直る力となります。もちろん受験対策などに備えた知識・技能を習得する学力は継続していきます。ただ、近年の入試問題は、知識だけでなく、データの活用力や科学的な思考力を問う出題なども多く出題されています。そのためにも「指導の転換」は欠かせません。



最後に、経営学者ピーター・センゲ氏は、今日求められている校長像は、『管理する組織』だけではなく、『学習する組織』のリーダーであると述べていました。私自身、この言葉を厳粛に受け止め、謙虚に学び続け、本校の教育がこれでよいのか、教職員とともに考え、今後も研鑽に励みたいと思います。今後とも本校の教育にご支援、ご協力いただきますようお願いいたします。

【部活動顧問の紹介】

今年度、以下の職員で部活動を運営します。部活動の地域移行が進められていますが、将来につながる素晴らしい友だち、先輩、後輩を作ってください。

〔個人情報保護のため割愛しています〕

東中学校の取組や子どもたちの様子をホームページに載せています。是非、ご覧ください。

https://www.itami.ed.jp/school/Jrhigh/jr_higasi/index.html

※右のQRコードをお読みいただき、東中学校のホームページをご覧ください。

